常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅢ
令和　４年　９月 27 日(火)
通算 262 号

◇ 加藤先生から聞いた ちょっと「いい話」

岡崎ライオンズクラブが行っている社会貢献活動のうち、担当者が語った「力点を置く事業」の一つに、市内の特別支援学級在籍児童と学校関係者対象の社会見学がある。

9/13(火)、３年ぶりに開催された同事業の「東山動物園見学」に、本校からは２名の児童と２名の教職員が参加し、貴重な学びの場を得た。そこでの「ちょっといい話」。

参加した児童は、４年生のＡさんと２年生のＦさんの両名。前日は「学区ふれあい遠足」があり、疲れも残る中の活動だったと思う。それでも両担任から、口をそろえて「大変立派に活動できました。」との報告を受けた。Very Good!

担任からの報告と帰着後の元気な姿で十分であったが、その後、加藤先生から２年生のＦさんの追加報告があった。

加：遠足でＦさんの「素敵な姿」が見られたので、追加報告します。
長：いいねえ。聞かせてください。

加：園内見学で、Ｆさんから少し離れて後方を歩いていたときのことです。
Ｆさんが開閉式の扉を開けてパビリオンに入り、扉を閉めようとした時、ベビーカーを押す母親の姿を見かけたのでしょう。Ｆさんは、閉めかけた扉をもう一度開けて「どうぞ通ってください」という仕草を見せました。
おかげで母親は、ベビーカーを押したまま、扉を開けることもなくエリアを通過しました。母親からお礼もあり、見ていて気持ちのよい場面でした。
小さな行動ですが、状況をとっさに判断し、自然にとったＦさんの行動は正直、驚きました。そして、じんわりと喜びが込み上げてきました。

長：ほう、それはすごい。
「扉を開けてあげる」という行動の価値をしっかりと理解していたということだな。

加：はい。
学校やこどもの家などの生活の場で、同じような場面を見たり、やってもらったり、誰かにしてあげたりして学んだのかもしれません。

長：相手が母親だったから、いつも家で母親にしているかもしれない。
もしかすると、日々の生活の加藤先生の姿から学んだことかもしれませんよ。

いずれにしても、価値があるのは、家や学校という自分のコミュニティーを離れた外の世界でＦさんが行動できたことですね。

加：Ｆさんにとって「あたりまえ」になっているということですか。

長：そう考えていいですね。

加：はい。

もう一つというか、話の続きがあるんです。言うか迷ったんですが…。

長：ほう、聞かせてもらえますか。

加:子供連れのお母さんの旦那さんも一緒にいたことが、後から分かりました。
Ｆさんが扉を開けてあげたパビリオン見学を終え、そこから出ようとした時、こちらの方を見て出口の扉を開けてくれている男性がいました。
「親切な方がいるな」と思い、出口を抜けるときにお礼を言うと、その男性が、にっこり笑って、

『入り口で、あの子が、私たちのために扉を開けてくれたお返しです。』と言われました。

出口を抜けると、ベビーカーを押す先ほどのお母さんの姿があったので、扉を開けてくれた男性が子供のお父さんであることが分かりました。

大きな荷物も持っているわけではないので、さすがに照れましたが、Ｆさんの行動がなければなかったことですし、照れを超えて嬉しくなりました。
Ｆさんにも、お父さんの「親切返し」が伝わったと思います。

長：やるなあ、お父さん。一枚上手だわ。「親切返し」のチャンスをねらっていたな。
追加の話があってこその「いい話」ですね。お互いが、お互いに、予想もしなかった親切で心が温かくなる。　「深イイ話」にでも投稿してみる？

こうした喜びは担任ならでは。そして子供の成長は、教師の最大の励みに変わる。